

国立病院機構熊本医療センター

No.238



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 院長就任のご挨拶

院長 <sup>たかはし</sup> 高橋 <sup>たけし</sup> 毅



平成29年4月1日付けで院長に就任致しました。仕事の重要性、責務の重大さを思うと身の引き締まる思いです。歴代の院長が、頑なに守ってこられた当院のスローガン「1年365日24時間、断らない救急医療」を継承し、地域医療の一翼を担って行く所存でございます。開放型病院登録医の先生方には引き続き、ご協力ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

さて、河野文夫前院長が平成24年に就任されて、すぐに手がけられました外来増築計画がようやく着工いたしました。平成30年秋に竣工し、引き続き救命救急センターの拡張工事が始まる予定です。新外来増設棟には、現在の化学療法

センターを発展させた、総合がん治療センターを開設し、患者さまに寄り添ったがん治療を提供して行きたいと考えています。

この4月から院長に加え、2名の副院長、統括診療部長が交代しました。大塚忠弘副院長には救急医療体制支援を、清川哲志副院長にはがん診療体制支援を、さらに、渡邊健次郎統括診療部長には地域医療連携室長を担当してもらい、菊川浩明副室長とともに、登録医の先生方との連携をさらに密にして行く新体制を整えました。引き続き熊本の医療に貢献できるよう努力してまいります。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



## 『医療センターといえど?』

阿部内科医院

院長 鈴木 保子

阿部内科医院は昭和48年4月に、19床の有床診療所として開院。平成12年7月に法人化。療養病床に改築する際に15床に減床し、平成25年に休床。現在は外来診療のみで、在宅支援診療所ではございませんが、訪問診療も行っております。私は平成22年秋より勤務し、平成27年春から院長となり、理事長の母 阿部良子と共に診療しております。

国立病院機構熊本医療センターには平成16年1月から平成18年3月まで、放射線科医として勤務させて頂き、救急当直や管理当直の経験が今に役立っています。当時の先生方が今も居て下さることは、心強い限りです。いつもお電話一本で診ていただき、大変お世話になっております。ありがとうございます。

丁度在職中の平成16年4月に、国立熊本病院から

国立病院機構熊本医療センターとなり、当時は「電話をとったら、『国立病院機構熊本医療センター』と、フルネームで応えること」と厳命されたものでした。おかげで今でも嘸まずに言えます。

ただ、当院は熊本地域医療センターに近い事もあって、「医療センター」と言われると、まず、地域医療センターを連想します。そのため、スタッフ間では「国立」「地域医療」と言い分けるようにしております。最近の先生方が「医療センターの〇〇です」と名乗られるのを伺って、「間違えるよ」と、婆臭い事を考えておりました。ところが、先日、患者さんから病歴を聴取していて、「医療センターを受診したら肺炎でした」と言われたものを、「国立で肺炎治療」とカルテに記載してしまい、あとから話が合わなくなりました。ついに、自分自身で「医療センター」を「国立病院機構熊本医療センター」に脳内変換してしまったのかと愕然となり、それだけお世話になっている、という事を実感致しました次第です。

これからもよろしくお願ひ申し上げます。



## 平成28年度 第2回 (通算42回) 開放型病院連絡会が開催されました

平成28年度第2回(通算42回)国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、去る2月25日(土)午後6時30分より、熊本医療センター2階地域医療研修センターにて開催いたしました。

開会にあたり、河野院長より現状報告と日頃の病病・病診連携へのご支援に対し感謝を申し上げます。続いて、開放型病院運営協議会委員長で、熊本市医師会会長の福島敬祐先生からご挨拶を頂き、全体会議に移りました。

全体会議では、中島 健歯科・口腔外科部長より「歯科・口腔外科と医科との連携について」、辻 隆宏総合診療科医長より「総合診療科の紹介」についての症例提示が行われました。この後、清川哲志地域医療連携室長から「地域医療連携室からのお知らせ」、「紹介予約センターからのお知らせ」を行い、最後に熊本市歯科医師会会長の宮本格尚先生からご挨拶を頂き、全体会議を終了いたしました。

続いて、熊本市医師会理事の家村昭日朗先生に座長の労をおとり頂き、厚生労働省大臣官房審議官の椎葉茂樹様による特別講演「地域医療構想と地域包括ケア」が行われました。

開放型病院登録医の先生方をはじめ、ご参加いただいた皆さまにおかれましては、お忙しいところ誠に有り難うございました。多数のご参加を頂き、大変有意義な連絡会となりました。この会が当院との連携を一層深めていただき、地域医療を益々発展させる機会となれば幸いです。今後とも、ご指導・ご鞭撻を宜しくお願ひ申し上げます。(管理課長 清水就人)



熊本市医師会会長  
福島敬祐先生のご挨拶

# 退任のご挨拶



院長

河野 文夫

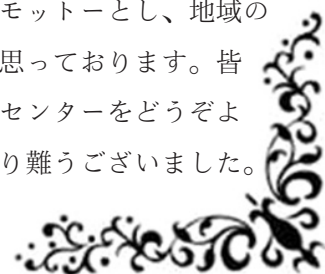


私は、国立病院機構熊本医療センター院長を退任致しました。池井聡名誉院長の後を継いで院長を拝命しましてから満5年となります。思い起こしますと、病院は池井院長の時代に新築し、経営も順調でしたので、私の使命は、病診連携のさらなる促進、患者さんへのサービス（接遇、患者満足度）の向上と、職員のQOLの向上と思い、この三つの目標を立ててすこしでも私の代で、改善したいと思ってスタートしました。しかし、病院は生き物で、毎日何かの問題が起こり、その解決に全力を挙げる日々でした。幸い、一緒に働く有能な職員の皆さんに支えられ、何とか責務を果たせました。

私がこの病院に赴任したのは平成元年5月でした。熊本県で同種骨髄移植を立ち上げること、と、国際医療協力を行うことが目的でした。幸い、多くの先輩、同僚、後輩、さらに熊本大学第2内科、国立病院の職員の皆さんの協力を得て、何とか目的を果たせたかなと思います。

また、多くの患者さんをご紹介いただき私達を成長させていただいた開放型病院の先生方のご恩は忘れることができません。先生方がご紹介していただいた患者さんから多くのことを勉強させていただきました。そしてこの病院での28年間に多くの皆さんとの出会いがございました。皆さんから実に多くのことを学ばせていただきました。お一人お一人に感謝の気持ちで一杯です。

最後に、当院は、365日、24時間どんな患者さんでも救急医療を断らないをモットーとし、地域の先生方のお役に立ちたいと思っております。皆様には、今後とも熊本医療センターをどうぞよろしくお願い致します。有り難うございました。



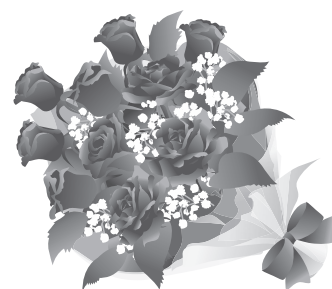
副院長

片渕 茂

平成29年3月31日付けで熊本医療センターを退職致しました。開放型病院登録医の先生方にはこの17年6ヶ月間、大変お世話になりました。特に、地域医療連携室長として5年、副院長として4年間は、多数の患者様をご紹介頂くとともに、多数の転院患者様をお引き受け頂き大変ありがとうございました。この間は大きな病院変革の時代であり、私に関わらせて頂いた、

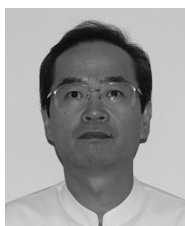
オーダリングシステムの導入、電子カルテへの移行、新病院への移転、さらにクリティカルパス、地域医療連携クリティカルパスの作成におきましても先生方に多大なご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

4月1日より朝日野総合病院に勤務致します。北部地域の医療・介護・福祉などに貢献したいと思っております。これからもご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。





# 就任のご挨拶



副院長

**大塚 忠弘**

この度の異動で教育研修部長職を辞し、副院長を命じられました。高橋毅院長による新体制がスタートし、あらためて職責の重さを痛感致します。

新体制のなかでは、救急医療体制支援を担当します。救急医療は、地域医療を主導される先生方、消防署救急救助担当の方々、院内では救急担当職員および後方

でバックアップする職員等による成熟した相互理解なくしてモチベーションを高くすることはできません。

昨年4月の熊本地震で体験した素晴らしいリレーをお手本に、最後の砦として当院の使命を果たせるよう取り組みます。また、医療安全に対する課題も残しています。医療安全教育をはじめ様々な対策を実施していますが、十分に浸透しているとは言えません。一層の意識の向上を図り、地域の安全および患者さまと職員の安全を確保出来るよう努めます。

これまで数多くの諸先輩方のご尽力により、当院は名実ともに国内有数の病院へ飛躍してきました。良き伝統を継承し、更に新たな芽を生むべく努力して参ります。不慣れな部分も多々ありますが、一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



副院長

**清川 哲志**

この度、高橋新院長のもと、副院長を拝命いたしました。これまで地域医療連携室長として皆様にご世話になりました。誠にありがとうございます。この役割の中で、ご協力頂いている病院診療所にお伺いし

実感したことは、当院が担当するさまざまな高度急性期医療も各分野、各職種の連携がうまく繋がって初めて患者さんの生活の改善に役立つということです。がん診療は正にその状況にあり、これにさらに力を入れて参ります。

これまでも当院の各種の医療連携クリティカルパスにご協力を頂いております。このような取り組みをさらに充実したいと思います。機能分担と協力、情報共有で地域としての医療の質を向上させていきましょう。これからの厳しい医療情勢を乗り越えるために、より深い地域医療連携を築きながら皆様のお役に立ちたいと思います。ご支援よろしくようお願い申し上げます。



統括診療部長  
地域医療連携室長

**渡邊 健次郎**

平成29年4月1日付けで統括診療部長を拝命いたしました。

当院は精神科病棟を有する救急病院で、県内の医療

機関の皆様には、連携医療を通じて、一般身体救急のみならず、精神科的対応を要する多くの患者様のご紹介をいただいております。また、当院での治療が一段落した後は患者様の受け入れや、転院も快くお引き受け頂いており大変感謝いたしております。

今後は、統括診療部長の立場から、皆様とさらに連携を密にして、「患者様ファースト」の精神と「チームワーク力」で熊本県の医療に貢献できますように尽力致します。皆様のところにもお伺いさせていただくことがあると思いますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



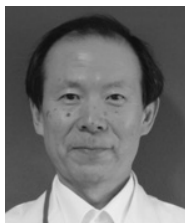
副地域医療連携室長

**菊川 浩明**

このたび副地域医療連携室長になりました泌尿器科部長の菊川でございます。副室長就任にあたり当院の

ホームページで域連携室の業務内容について再確認しましたが、実に多岐にわたり、まさに身の引き締まる思いです。清川先生、大塚先生、連携室スタッフがこれまで築いてこられた登録医の先生方との太い絆をさらに強固なものにすべく室長の渡邊先生の指導を仰ぎながら精一杯頑張りたいと思います。とはいうものの、当院の紹介予約センターの利用法でさえまだあやふやな状態ですので一からの勉強となります。どうぞ宜しくお願いいたします。

# 退任のご挨拶



小児科

**高木 一孝**

昭和63年4月に赴任し29年間、医師人生の大半を熊本で過ごしました。最後の年に熊本地震に見舞われ、ことさら深く記憶に刻まれる退任となりました。

在任中は一般小児科診療に加え、白血病など血液疾患の子ども達の診療に従事してきましたが、その間、先生方から多くの患者さまを紹介いただき大変お世話になりました。患者さまを通じて多くのことを学ばせていただきました。昭和47年に前任の富田泰弘先生が始められた当院での小児科勉強会（火曜会）も、お陰様で途切れることなく今日まで続けております。

先生方の温かいご指導、ご支援を賜り無事に職務を全うすることが出来ました。心より感謝とお礼を申し上げます。



栄養管理室長

**松永 直子**

3月31日でいよいよ退職を迎えることとなりました。熊本医療センターでは3年間お世話になりました。地元嬉野医療センターを最初に6施設に勤めさせていただきました。最後の年には、熊本地震という大きな試練がありましたが、職場のスタッフや職員の方々のご協力

で無事に乗り切ることができました。感謝申しあげます。

栄養士となって30年、時代の流れと共に業務内容も給食業務から臨床業務への拡大と大きく変わってきました。悪銭苦闘しながら何とか無事に退職を迎える事ができました。

仕事を優先できたのも家族の協力や支えがあったの事と思います。これまで食に関わる仕事ができ幸せでした。熊本医療センターで勤務した3年間は忙しくはありましたが、とても充実した日々でした。これからも益々の発展を祈念いたします。ありがとうございました。



臨床検査科長

**武本 重毅**

早くも11年と10ヵ月の間、「くまびょう」でお世話になりました。

熊本大学医学部附属病院から、米国国立癌研究所で客員研究員としての3年半、高知大学医学部附属病院で助手・学内講師として臨床・研究と共に教鞭をとった5年半、そして9年ぶりに帰ってきた熊本で待つ

いたのは慣れない救急当直の洗礼でした。他の科の先生方や看護師の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。その一方、病棟では日高血液内科部長と造血幹細胞移植に取り組みました。河野院長から引き継いだ国際医療協力活動、芳賀臨床研究部長に指導していただいた論文執筆など、自分にとっては人生の中の思い出に残る一コマです。看護師だけでなく臨床検査科スタッフや事務系職員の方々には、私の「わがまま」な性格で不愉快な思いをさせてしまったこともあるでしょう。今年57歳になる今になってやっと自身を知らされた次第です。これまでの経験を踏まえ、これからは新しい職場で、患者さんやスタッフたちと良い関係を築いていきたいと思っています。

これまで本当にありがとうございました。



管理課長

**清水 就人**

平成26年4月に管理課長として赴任して、早3年が経ちました。毎月のように大切な行事やイベントが何かしら予定されていて、大変な病院に来たなという印象でした。2年目は、県下初の脳死下臓器提供が行われ、私にとっても初めての経験となりましたが、その

後、平成28年3月、平成28年11月と続きましたので、結局3回の脳死下臓器提供に携わることとなりました。3年目の平成28年度は、皆様ご承知のとおり、熊本地震で始まりました。当時マスコミの対応窓口となり大変な思いをしましたが、1年経った今でも、地震に関する取材の申込み等に対応しています。このように、熊本医療センターに来ての3年間は、私の力不足もありますが「忙しかった」の一言に尽きます。しかし、皆様のご協力とご支援のお陰でなんとかここまでやってこれたと感謝しております。ありがとうございました。今後は、熊本医療センターでの経験を活かして頑張っていきたいと思っています。皆様、どうぞお元気で。今後の皆様の益々のご発展とご多幸をお祈りいたします。

## 退任のご挨拶



経営企画室長

石井 竜男

この度、4月1日付けで、国立病院機構沖縄病院に異動となりました。

平成6年4月に熊本を離れ、単身赴任連続21年間を経てふるさと熊本に戻り自宅通勤となりましたが、また単身赴任生活（沖縄初上陸）に戻ります。

平成27年から2年間、皆様方にはひとかたならぬご

支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。心より感謝いたしております。

この2年間での思い出は、脳死下臓器提供を2度経験したこと、上行結腸憩室炎で入院したこと、特に大きい出来事は平成28年4月の熊本地震を受け職員が一丸となって対応したことです。地元の熊本医療センターに勤務して良かったと思います。

新任地でも、熊本医療センターでの経験を生かして、精一杯頑張りたいと思います。

最後に、高橋院長新体制のもと、職員が一丸となって、熊本医療センターが益々発展することを祈念いたしまして、ご挨拶にかえさせていただきます。

2年間、本当にありがとうございました。



副看護部長

田崎 ゆみ

4月1日付で国立病院機構沖縄病院へ異動することとなりました。この4年間で、全国のモデルとなる熊本の医療連携体制を学び、地域の医療機関がそれぞれの特性を活かし連携することで、質の高い医療が効率的に提供できることを実感いたしました。熊本地震で

当院が多くの患者さんを受け入れられたのは、当院からの転院を快く受け入れてくださった施設があり、地域の先生方との連携の重要性を痛感いたしました。

また、在宅療養支援に向けては看護職が大きな役割を担っており、地域の看護職間の連携を深めることが今後の課題と感じております。

このような環境の中で勤務させていただいた経験を私自身の宝として、次の施設でも与えられた役割を果たせるよう努力して参ります。最後になりましたが、地域医療機関の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念致しますと共に感謝申し上げます。

## 熊本医学会奨励賞を受賞しました

去る平成29年3月17日に、第90回熊本医学会総会（併催第69回熊本県医師会医学大会）が、熊本大学生命科学研究部 附属臨床医学教育研究センター 奥窪記念ホールにて開催され、その際に熊本医学会奨励賞を授与する栄誉に授かりました。「多職種連携による地域自殺危機介入の取組（熊本救急医療自傷・自殺問題対策協議会など）」を<社会活動部門>にて賞されました。これは、当院精神科、救命救急・集中治療部を中心に、医師だけでなく看護師、心理士、精神保健福祉士などの多職種が一丸となって取り組んでいる自殺危機介入活動が高く評価されたことだと受け止めています。この活動には日頃より熊本市の救急医療施設、熊本市消防局、熊本県・市保健行政、熊本県警察の方々が快く力を貸してくださっていて、平成25年11月の活動開始以来、いくつもの仕事を成し遂げてきました。

教育研修においては熊本PEECコース他の定期開催、



奨励賞授与の様子

自死遺族支援においてはパンフレット改訂（“大切な人を亡くされた方へ”とタイトル・内容の改善）などです。平成28年熊本地震後の再建にもこの活動を通じて尽力していきたいと考えています。皆さまからのご指導を今後ともよろしくお願いいたします。

（精神科医長 橋本 聡）



## 地域医療研修センター運営委員会が開催されました

平成29年2月28日16時より当院の応接室で、院外から運営委員会委員長・熊本県医師会長福田稔様、熊本市健康福祉部健康局長立川優様、熊本大学医学部附属病院院長水田博志様、熊本県医師会理事魚返英寛様、熊本県歯科医師会長浦田健二様にご参加いただき、また院内の委員の方々にもご参加いただき、地域医療研修センター運営委員会が開催されました。

平成28年度は年度始めに発生した熊本地震による一時閉鎖措置がありましたがお陰様で比較的早期に再開いたしました。参加者の方々も地震からの復興に忙しく働かねばならず、勉強や研修に時間を割くことが厳しい状況であったかと思いますが、そのような中でも多数の方々に参加していただき、平成29年1月31日現在で院内外合計43,533名の方が研修センターをご利用いただき、昨年度の46,714名には及びませんでした。それに近い参加をいただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。



地域医療研修センター運営委員会の様子

当研修センターは開設以来32年目を迎えますが、これまでの研修を継続するとともに今後さらに内容の充実に努めて参る所存です。御参加方よろしく申し上げます。

(地域医療研修センター主幹 富田正郎)

## 消防訓練が行われました

去る2月28日 更なる防火体制の確立を図り火災発生時に迅速な対応が出来るよう通報、初期消火、避難誘導の訓練が実施されました。

今回の訓練は、勤務するスタッフが少ない夜勤帯に



初期消火訓練

6階北病棟処置室より出火、延焼拡大したという想定で訓練を行いました。

火災報知器のサイレンとともに訓練が始まり火災を発見した職員の通報又、火災を知った職員による消火器や屋内散水栓を使用しての初期消火、さらに火災拡大に伴い入院患者役の看護学生さんを屋外階段へ避難誘導を行い本番さながらの訓練が行われました。避難終了後、看護学校階段下に設営された現場指揮本部へ各病棟より被災及び避難状況の報告が行われ最後に、河野院長より訓練講評その後、消火器の取り扱い訓練を行い一連の消防訓練を終了しました。

毎年行われる消防訓練ですが、今回も参加者全員が真剣に取り組み、非常に有意義な訓練を行うことが出来ました。検証結果、参加者の意見を踏まえて今後の消防対策の強化に繋がりたいと思います。

(救急医療支援業務担当 後藤達広)

## 熊本城マラソンに参加しました

今回の大会はメディカルランナーという形で出場させていただきました。幸い救命処置が必要となるような場面には遭遇しませんでした。終盤足が攣って動けなくなっているランナーさんなどに声をかけながら走りました。大会全体を通して重症症例の発生はなかったようです。

私自身はこの大会の2週間前に別府大分毎日マラソン42kmを走ったばかりでしたので、さすがにタイムは伴わず、3時間22分というタイムでのゴールでした。

(整形外科医長 中馬東彦)



# 熊本医療センターNSTセミナーが行われました

3月13日熊本医療センターNSTセミナーが開催されました。

一般演題では、山田栄養士による「当院における消化態栄養剤の使用状況について」、また深水看護師による「神経性食思不振症の患者へのチームアプローチにより回復が図られた一症例」について報告して頂きました。

また日本コンチネンス協会九州支部副部長のコンチネンスアドバイザー種子田美保子先生による「これだけは知っておきたい～薬に頼らない排便ケアABC」の特別講演が開催され、院外から91名院内から46名と多くの方に参加頂きました。普段は在宅においての排便ケアの相談や、全国各地に排泄ケアの講師として活動されておられます。



特別講演会場の様子

日頃の経験談を交えて日常業務にも活かせる分かりやすい内容でした。

今後もセミナーなど開催しNST活動に繋げて行けたらと思います。  
(栄養管理室長 松永直子)

# 「JICA研修」HIVエイズ予防及び対策

JICA九州の平成28年度課題別研修「HIV/エイズ予防および対策～MDG6達成にむけて～」が、昨年度に続き、株式会社ティーエーネットワークにより、当院にて開催されました。今年度は、ベリーズ、レント、モザンビーク、パプアニューギニア、スリナム、スワジランドの6ヶ国から8名の研修員が参加しました。

研修期間は、2月17日(金)から3月10日(金)まで、研修日数は16日間でした。当院の他、熊本エイ



参加者と記念撮影



修了証書授与

ズ検査・相談所、熊本大学エイズ研究センター、日本赤十字社九州ブロック血液センター、JICA東京、東京都庁、国立感染症研究所、国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターにて、講義受講、見学を行いました。最終日の3月10日は、評価会、修了式を行った後、研修生を囲んでフェアウェルパーティを行いました。帰国後のご活躍を祈念致します。

(管理課長 清水就人)

# 病衣レンタルサービスを始めました

3月1日より患者様、ご家族様の負担軽減の為、病衣レンタルサービスを始めました。

手ぶらでご入院でき、洗濯物の枚数などを気にせず、治療に専念できます。また、院内外の感染予防にもなります。  
(算定病歴係長 甲斐裕樹)

4階  
レンタルカウンター



**熊本医療センター**

手ぶらで入院・手ぶらで退院

**e-レンタル**

衣類、タオル、日用品等  
レンタルサービス!

ご必要なものを  
枚数制限なしで

入院 院内外  
有給費別課 都合次第に、あんしん

お部屋へ直接お届け!

**レンタル定期セット**

商品名	内容	1週間	2週間	1ヶ月
病室での洗濯セット	寝巻: 着替用(着) 1着	1,800円	3,500円	6,800円
お着替え洗濯セット	寝巻: 着替用(着) 1着 バス用タオル: 2枚 タオル: 2枚	2,800円	4,600円	8,200円
お着替え洗濯セット	寝巻: 着替用(着) 1着 バス用タオル: 2枚 タオル: 2枚 洗面用タオル: 2枚	5,000円	9,200円	17,500円
お着替え洗濯セット	寝巻: 着替用(着) 1着 バス用タオル: 2枚 タオル: 2枚 洗面用タオル: 2枚 お風呂用タオル: 2枚	700円	1,200円	2,200円
お着替え洗濯セット	寝巻: 着替用(着) 1着 バス用タオル: 2枚 タオル: 2枚 洗面用タオル: 2枚 お風呂用タオル: 2枚 お風呂用タオル: 2枚	700円	1,200円	2,200円
お着替え洗濯セット	寝巻: 着替用(着) 1着 バス用タオル: 2枚 タオル: 2枚 洗面用タオル: 2枚 お風呂用タオル: 2枚 お風呂用タオル: 2枚	500円	900円	1,600円

※オプション実費セットは、上記実費セットにいずれか1種を追加にてご利用頂けます。

**レンタル定期セットご利用案内**

①レンタル定期セットは、商品の使用制限なくご必要分ご利用いただけます。  
②商品の使用制限は、商品の使用制限に準じます。ご利用の際は、商品の使用制限に準じます。  
③商品の使用制限は、商品の使用制限に準じます。ご利用の際は、商品の使用制限に準じます。  
④商品の使用制限は、商品の使用制限に準じます。ご利用の際は、商品の使用制限に準じます。  
⑤商品の使用制限は、商品の使用制限に準じます。ご利用の際は、商品の使用制限に準じます。

**その他サービスのご案内**

お電話のご注文はできません。カウンターでのお申し込み受付商品となります。

商品名	内容	利用期間	価格
入院用タオル	寝巻: 着替用(着) 1着 バス用タオル: 2枚 タオル: 2枚	1泊のみ	700円
お風呂用タオル	寝巻: 着替用(着) 1着 バス用タオル: 2枚 タオル: 2枚 洗面用タオル: 2枚 お風呂用タオル: 2枚	1泊	1,800円

**販売商品**

商品名	内容	価格
お風呂用タオル	寝巻: 着替用(着) 1着 バス用タオル: 2枚 タオル: 2枚 洗面用タオル: 2枚 お風呂用タオル: 2枚	1,800円

お申し込み、お問合せは4階レンタルカウンターにお申し付け下さい。

**レンタルカウンター**  
【営業時間】  
9:30~17:00 ※土日、祝日、年末年始休業

**カスタマーサポートセンター**  
【営業時間】  
9:00~17:30 ※土日、祝日、年末年始休業

株式会社 栄久  
〒710-0111 熊本県宇都宮市上通町1-1

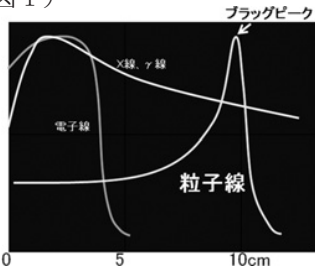


## がんの陽子線治療セミナーが行われました

平成29年2月24日、メディポリス国際陽子線治療センター長代理 荻野尚先生をお招きし、「メディポリス国際陽子線治療センターにおける陽子線治療」の演題でご講演いただきました。荻野先生は日本の陽子線治療をリードされてきた放射線治療医です。リゾート地である鹿児島県指宿に建つ当センターは、温泉を楽しみながらリラックスしてがん治療を行う、「病院らしくない病院、患者さんらしくない患者さんがいる病院」を目指して



質問に答えられる荻野尚先生



います。陽子線（粒子線）の最大の特徴は、体内深部で一気にエネルギーが放出する「ブラッグピーク」を持つことです（図1）。

この優れた線量集中度で、正常組織を最大限に外し、1～3方向程度から当てるだけで癌病巣のみへピンポイントに照射出来ます。現在はまだ小児腫瘍のみにしか保険適応のない陽子線治療ですが、メディポリスでは、先進医療として多くの難治癌の患者様に対して陽子線治療を行い良好な治療成績を出しており、近い将来、保険適応の拡大が期待されます。（放射線科医長 富高悦司）

## 第6回 二の丸外傷セミナーが行われました

2017年2月12日に第6回二の丸外傷セミナーが開催されました。このセミナーは初期臨床研修医1年次を対象とした外傷初期診療のシミュレーション教育で、外傷初期臨床ガイドライン「JATEC」に準拠した内容で当院独自で行っているものです。当初は1月22日に開催する予定でしたが、インフルエンザの流行のため中止・延期となっておりますが、何とか2月12日に開催することが可能となりました。



シミュレーション教育

指導者として、院内の救急科医師、外科医師だけでなく、当院の初期臨床研修の



参加者で記念撮影

卒業生である伊東山剛先生（新別府病院脳神経外科）、八木泰佑先生（熊本大学病院消化器外科）にも参加していただきました。また、研修医2年次も後輩の指導のためにアシスタントとして参加いたしました。指導していただいた先生方に心より感謝申し上げます。

研修医1年次の先生方は、1日をかけてみっちりとお外傷初期診療について学びました。きっと医師として大きく成長できたと思います。今後の救急診療にきっと生かされることと思います。（教育研修科長 原田正公）

## 研修のご案内

### 第218回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成29年4月17日(月) 19:00～20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います  
 「第1症例 糖尿病・内分泌内科から粘液水腫性昏睡の一例」  
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 岩村一輝  
 「第2症例 呼吸器内科からの症例」  
 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 名村 亮
- ミニレクチャー「心房細動について」  
 国立病院機構熊本医療センター循環器内科 山田敏寛  
 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

2017年

## 研修日程表

4月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

4月	研修センターホール	研修室
1日(土)		
2日(日)		
3日(月)		
4日(火)		
5日(水)		
6日(木)		
7日(金)		
8日(土)		
9日(日)		
10日(月)		
11日(火)		13:00~17:15 新人看護師技術研修 ~楽しく学ぶ基本のき~ (研2)
12日(水)		
13日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会	
14日(金)	13:00~17:15 新人看護師技術研修 ~楽しく学ぶ基本のき~	
15日(土)		
16日(日)		
17日(月)		19:00~20:30 第218回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
18日(火)	19:30~21:00 第49回熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「義歯と摂食嚥下障害について」 くまもと温石病院歯科医師 川上 剛司 先生 ゆみこ歯科クリニック院長 町田 由美子 先生	
19日(水)		
20日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 14:00~15:00 第49回 市民公開講座 「全身の痛みについて」 国立病院機構熊本医療センター総合診療科医長 辻 隆宏	
21日(金)		
22日(土)		
23日(日)		
24日(月)		
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
26日(水)		
27日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 <細胞診月例会・症例検討会>	
28日(金)	14:45~17:15 新人看護師技術研修 ~楽しく学ぶ基本のき~	18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会(研2)
29日(土)		
30日(日)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)